

1. 主な特徴

- アンプ、スピーカーの筐体を贅沢にもアルミブロックから削り出しました。モノがもつ輝きを堪能していただけます。
- フルレンジスピーカーユニットをメカニカル・ワンポイント・アース構造で支えた非常にシンプルな構成になっています。

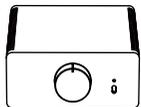
2. 開梱時のご注意

梱装箱とパッキング類は、修理および交換時の輸送用として使用する場合があります。処分せずに保管しておくことをおすすめします。

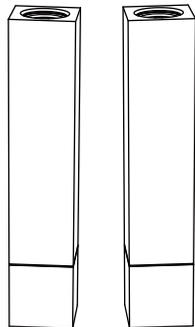
もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときには、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店または(株)タイムドメインラボまでご連絡ください。そのままではご使用にならないでください。

ご使用前に次の内容物がそろっていることをお確かめください。

・本体アンプ

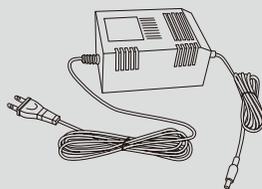


・スピーカー
(2本)



〈付属品〉

・電源アダプター



・取扱説明書 (本書)

・スピーカー端子カバー
4個



・保証書

《ご注意》

本機に付属されている専用電源アダプター以外は絶対に接続しないでください。故障の原因となります。付属されている専用の電源アダプター以外のものを使用されたことにより本機が故障した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

3. 安全にご使用いただくために

絵表示について

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

 **警告** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意** この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容 (左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください) が描かれています。

警告

■故障したままの使用はしない



万一、煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電、アンプの故障の原因となります。すぐに電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店または(株)タイムドメインラボに修理を依頼してください。

■絶対に裏ぶた、カバーははずさない、改造しない



- 本機の裏ぶた、カバーは絶対にはずさないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店または(株)タイムドメインラボに依頼してください。
- 本機を分解・改造しないでください。火災・感電の原因となります。

■100V以外の電圧で使用しない



- 本機を使用できるのは日本国内のみです。
- 表示された電源電圧 (交流100ボルト) 以外の電圧や船舶などの直流 (DC) 電源には絶対に接続しないでください。火災・感電の原因となります。

3. 安全にご使用いただくために

⚠ 警告

■ 放熱を妨げない



- 本機を逆さまや横倒しにして使用しないでください。
- 本機を、押し入れや本箱など風通しの悪い狭い所に押し込んで使用しないでください。
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、ふとんの上に置いて使用しないでください。
- 本機を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は、少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の横から2cm以上、背面から10cm以上のすきまをあけてください。

■ 水のかかるところに置かない



- 風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
- 本機は屋内専用に設計されています。濡らさないようにご注意ください。内部に水が入ると故障や火災・感電の原因となります。

■ 中に水や異物が入ったら



万一、本機の内部に水や異物が入った場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店または(株)タイムドメインラボにご連絡ください。

■ 雷が鳴りだしたら機器に触れない



雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。

■ 電源コードを傷つけたり、加工しない



- 電源コードが痛んだら(芯線の露出、断線など)販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードが傷ついて、火災・感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがありますのでご注意ください。
- 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、熱したり、引っ張ったりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。

3. 安全にご使用いただくために

⚠ 注意

■ 落としたり、破損した状態で使用しない



- 万一、誤って本機を落とした場合や破損した場合には、そのまま使用しないでください。火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜き、必ず販売店または(株)タイムドメインラボにご相談ください。

■ 設置上の注意



- 強度の足りない台や、ぐらついたり傾いたりした所、厚手のじゅうたんの上など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。
- 移動させる場合は、電源スイッチを切り、スピーカーコードや接続コード類をはずしてから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因、落下や転倒など思わぬ事故の原因となります。
- スピーカーコードや接続コード類の配線に注意してください。スピーカーコードや接続コード類を足に引っかけると落ちたり、倒れたりして危険です。特に、高いところに置いたときにご注意ください。

■ 次のような場所に置かない



- 湿気が多い場所や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
- 湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

■ 接続について



本機を他のオーディオ機器やテレビ等の機器と接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したりコードを延長したりすると、発熱し、やけどの原因となります。

■ 使用上の注意



- 音量(ボリューム)に注意してください。電源を入れたときに音量が大きすぎた場合、過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
- 音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
- 長時間音が歪んだ状態で使わないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し、火災の原因となることがあります。

3. 安全にご使用いただくために

⚠ 注意

■ 電源コード、電源プラグの注意



●電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災・感電の原因となることがあります。



●ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。

●電源コードを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



●電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

●旅行などで長期間、本機器をご使用にならないときは、安全のために必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行ってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となります。

■ 点検・工事について



●お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。感電の原因となることがあります。

●使用環境にもよりますが、2年に1回程度の機器内部の掃除をお勧めします。販売店または(株)タイムドメインラボにご相談ください。本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除、点検費用についても販売店または(株)タイムドメインラボにご相談ください。



●電源プラグにほこりがたまると自然発火(トラッキング現象)を起こすことが知られています。年に数回、定期的にプラグのほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。



●シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装がはげたり変形することがあります。



●表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと、乾いた布で拭いてください。

●化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。



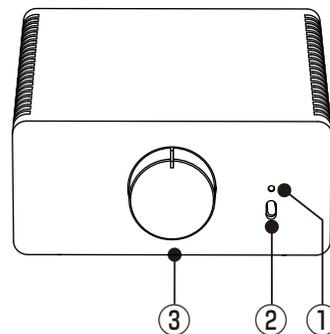
音のエチケット

楽しい音楽も、時間と場所によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分しましょう。
お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

4. 各部と名称のはたらき

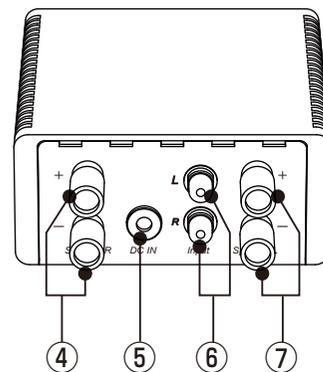
■ アンプ部

前面



- ① **パワーインジケータ**
電源が入ると点灯します。
- ② **電源スイッチ**
上げると本機の電源が入り、パワーインジケータが点灯します。
- ③ **ボリューム調整ツマミ**
ツマミを時計方向にまわすと徐々に音量が大きくなります。

背面



- ④ **右チャンネル用スピーカー出力端子 (Speaker R)**
右チャンネルスピーカーと接続するための端子です。
- ⑤ **電源アダプター接続端子 (DC-IN)**
本機に電源を供給するために専用の電源アダプターを接続する端子です。
- ⑥ **外部機器接続端子 (Input)**
外部機器と接続します。
詳しくは「外部機器との接続のしかた」を参照してください。
- ⑦ **左チャンネル用スピーカー出力端子 (Speaker L)**
左チャンネルスピーカーと接続するための端子です。

4. 各部と名称のはたらき

■スピーカー部

前面



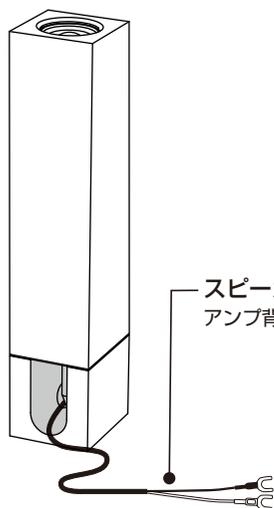
スピーカーユニット

音が出る部分ですのでふさがらないでください。

⚠️《ご注意》

スピーカーユニットは、手で触らないでください。

背面



スピーカーコード

アンプ背面のスピーカー出力端子に接続してください。

※スピーカーに左右の区別はありません。正面から見て右側に置いたスピーカーが右チャンネル用スピーカー、左側に置いたスピーカーが左チャンネル用スピーカーになります。

5. 外部機器との接続のしかた

ご注意

- すべての接続が終わるまでは、電源プラグをコンセントに差し込まないようにしてください。
- 電源プラグをコンセントに差し込む前には、必ずボリューム調整ツマミは反時計方向に回して最小の位置にしておいてください。
- 「右チャンネル用スピーカー出力端子」(Speaker R) および「左チャンネル用スピーカー出力端子」(Speaker L) はスピーカーを接続する専用端子です。それぞれの端子には1本のスピーカーしか接続できません。

！ヒント

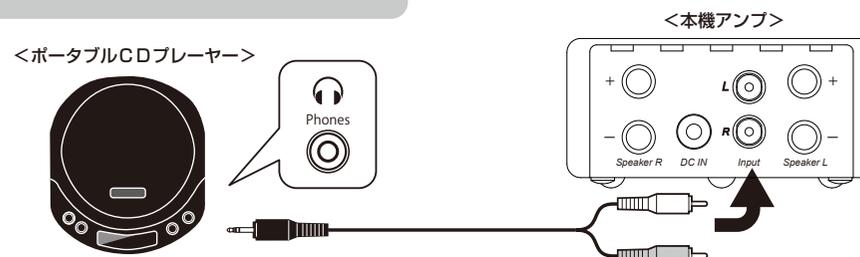
接続する機器により出力の大きさが異なるため、本機のボリュームを最大の位置にしても極端に音量が小さい場合があります。その際、スマートフォンなどボリュームがついている再生機器の場合は、再生機器側のボリュームをあげて、適正な入力の本機に入るようにしてください。

オーディオケーブルと端子の種類について

使用するケーブル	ケーブルや端子の役割
	主に CD プレーヤーやチューナーをつなぐときに使います。通常先端は白と赤になっています。本機と接続する場合、白い方を InputL、赤い方を InputR に接続します。
	ポータブルオーディオやBluetooth受信機などをつなぐときに使います。本機と接続する場合、白い方を InputL、赤い方を InputR に接続します。

ポータブルCDプレーヤーを接続する場合

ポータブルCDプレーヤーのヘッドフォン端子あるいはラインアウト端子から本機の外部機器接続端子 (Input 端子) に接続します。



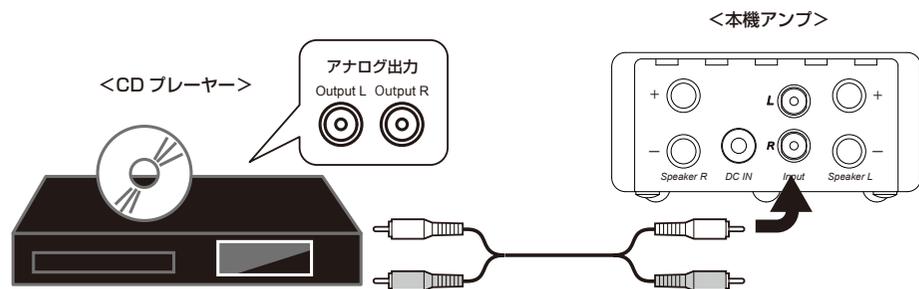
※ヘッドフォン端子に接続する時はポータブルCDプレーヤーのヘッドフォンボリューム位置を半分程度にしてください。

※ポータブルCDプレーヤーの取扱説明書もご参照ください。

5. 外部機器との接続のしかた

CDプレーヤーを接続する場合

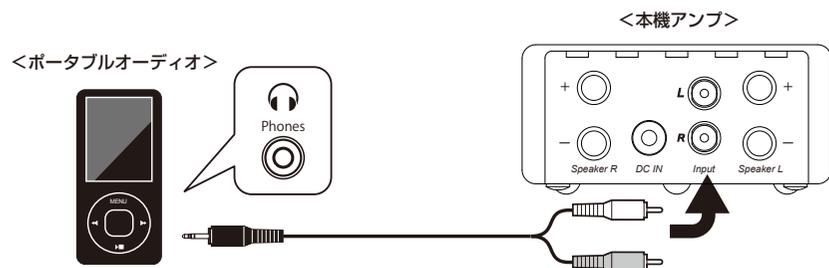
CDプレーヤーの音声出力端子(アナログ出力端子)から本機の外部機器接続端子(Input 端子)に接続します。



※CDプレーヤーの取扱説明書もご参照ください。

ポータブルオーディオを接続する場合

ポータブルオーディオのヘッドフォン端子から本機の外部機器接続端子(Input 端子)に接続します。

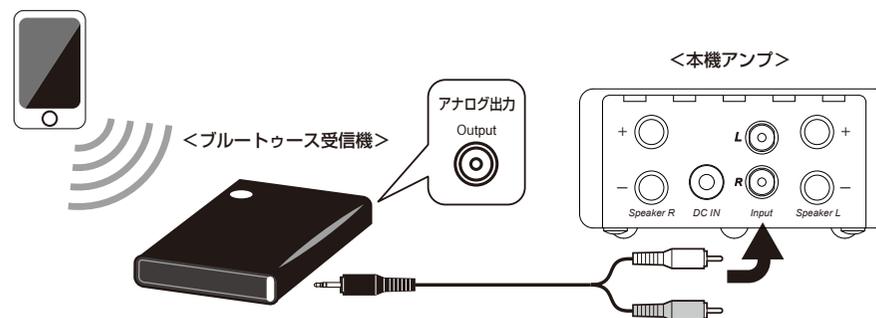


※ポータブルオーディオのヘッドフォンボリューム位置を半分程度にしてください。
※ポータブルオーディオの取扱説明書もご参照ください。

5. 外部機器との接続のしかた

Bluetooth受信機を接続する場合

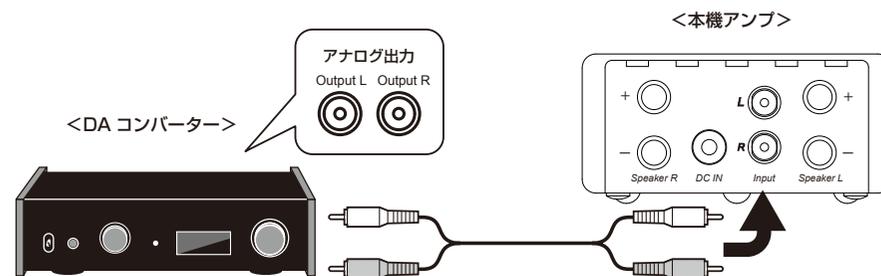
Bluetooth受信機の音声出力端子(アナログ出力端子)から本機の外部機器接続端子(Input 端子)に接続します。



※Bluetooth受信機とペアリングしている再生器のボリューム位置を半分程度にしてください。
※Bluetooth受信機の取扱説明書もご参照ください。

DAコンバーターを接続する場合

DAコンバーターの音声出力端子(アナログ出力端子)から本機の外部機器接続端子(Input 端子)に接続します。

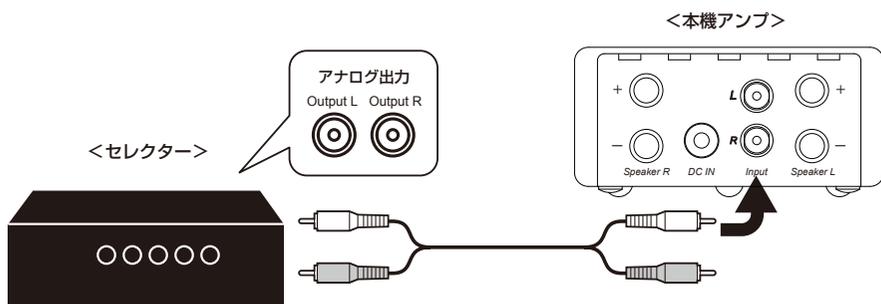


※DAコンバーターの取扱説明書もご参照ください。

5. 外部機器との接続のしかた

セレクター (AVセレクター) を接続する場合

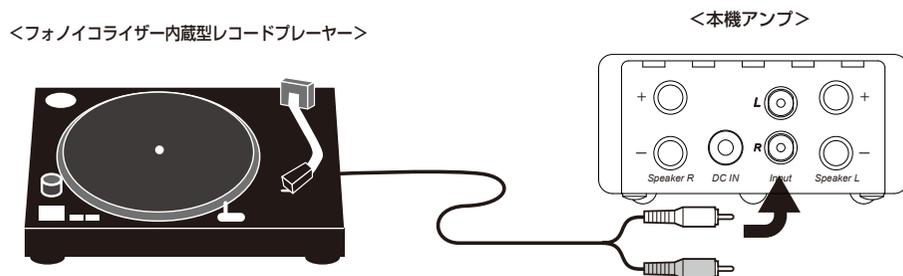
セレクターの音声出力端子(アナログ出力端子)から本機の外部機器接続端子 (Input 端子) に接続します。



※セレクターの取扱説明書もご参照ください。

レコードプレーヤー を接続する場合

フォノイコライザー内蔵型レコードプレーヤーから出ているピンコードを本機の外部機器接続端子 (Input 端子) に接続します。

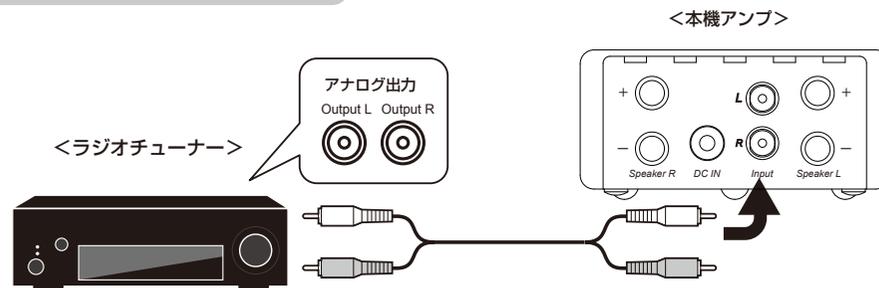


※レコードプレーヤーの取扱説明書もご参照ください。
※フォノイコライザーが内蔵されていないレコードプレーヤーの場合は別途フォノイコライザーが必要です。

5. 外部機器との接続のしかた

ラジオチューナーを接続する場合

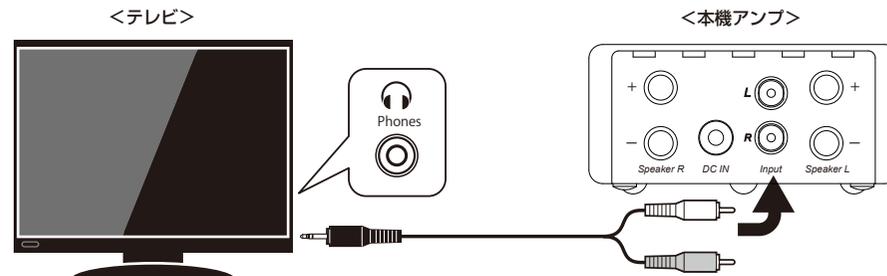
ラジオチューナーの音声出力端子(アナログ出力端子)から本機の外部機器接続端子 (Input 端子) に接続します。



※ラジオチューナーの取扱説明書もご参照ください。

テレビの音を本機で聞く接続をする場合

テレビのヘッドホン端子から本機の外部機器接続端子 (Input 端子) に接続します。

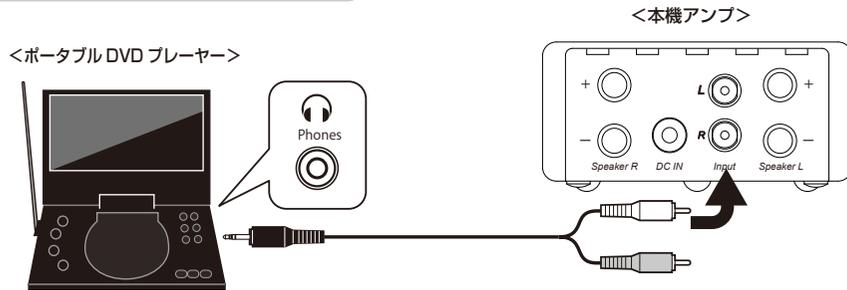


※テレビのヘッドホンボリューム位置を半分程度にしてください。
※テレビの取扱説明書もご参照ください。

5. 外部機器との接続のしかた

ポータブルDVD プレーヤーの音を本機で 聞く接続をする場合

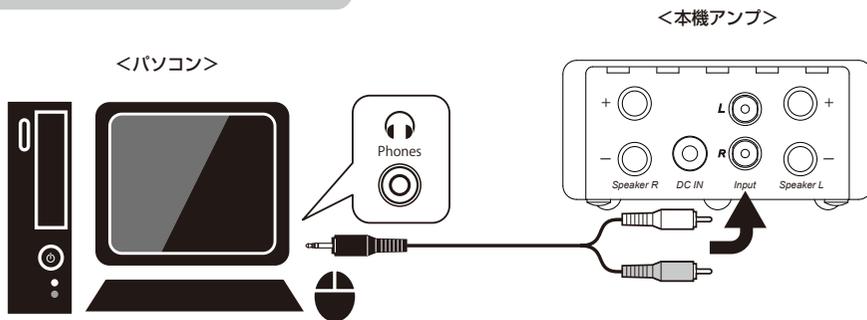
ポータブルDVDプレーヤーのヘッドフォン端子から本機の外部機器接続端子 (Input 端子) に接続します。



※ポータブルDVDプレーヤーのヘッドフォンボリューム位置を半分程度にしてください。
※ポータブルDVDプレーヤーの取扱説明書もご参照ください。

パソコンの音を本機で 聞く接続をする場合

パソコンのヘッドフォン端子から本機の外部機器接続端子 (Input 端子) に接続します。

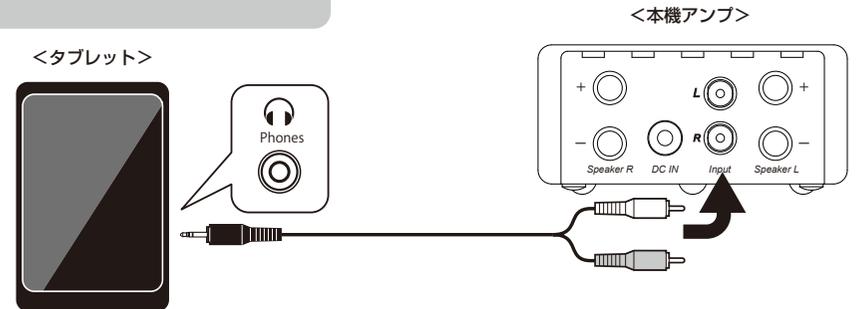


※パソコンのヘッドフォンボリューム位置を半分程度にしてください。
※パソコンの取扱説明書もご参照ください。

5. 外部機器との接続のしかた

タブレットの音を本機 で聞く接続をする場合

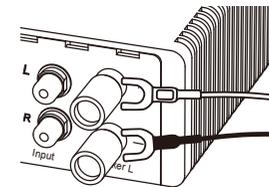
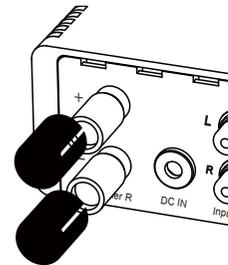
タブレットのヘッドフォン端子から本機の外部機器接続端子 (Input 端子) に接続します。



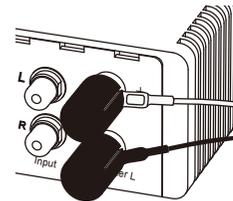
※タブレットのヘッドフォンボリューム位置を半分程度にしてください。
※タブレットの取扱説明書もご参照ください。

6. スピーカーをつなぐ

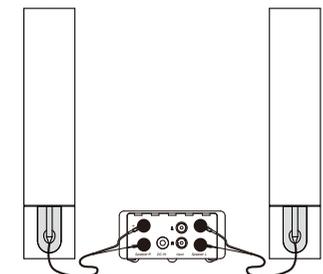
- ① スピーカー端子カバーを外す
- ② スピーカー端子ネジを緩めてスピーカーコードをアンプ SpeakerR、SpeakerL とつなげる
ケーブル (白) をスピーカー端子「+」に、ケーブル (黒) をスピーカー端子「-」に接続してください。



- ③ スピーカー端子ネジを締めて端子カバーをつける



<完成>

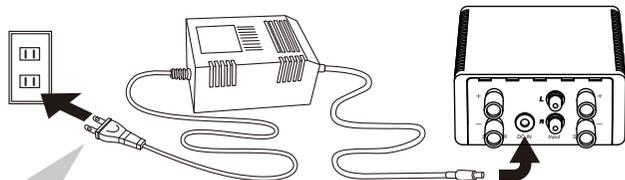


7. 電源を入れる

すべての接続が完了してから、付属の電源アダプターをコンセントに接続してください。

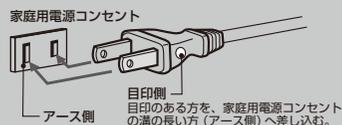
① 電源アダプターをつなぐ

電源アダプターをアンプの DC-IN とつなげ、プラグをコンセントに差し込みます。

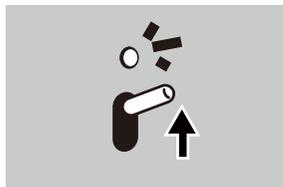


より良い音で聞いていただくために

本機の電源アダプターは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方へ合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

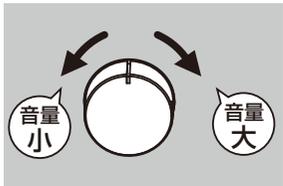


③ 電源を入れる



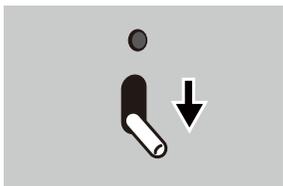
ボリューム調整ツマミが最小の位置（反時計回りにまわしきった状態）であることを確認して、電源スイッチを上げて入れてください。前面のパワーインジケーターが点灯します。

④ 音楽を楽しむ



ボリューム調整ツマミを時計方向にまわすと徐々に音量が大きくなります。

⑤ 電源を切る



電源スイッチを下げてください。前面のパワーインジケーターが消灯します。これで電源が切れた状態になります。

8. 困った時は

症状	原因	処置
電源が入らない	電源アダプターの差し込みが不完全	電源アダプターをコンセントにしっかり差し込んでください
		電源アダプターのプラグを本体にしっかり差し込んでください
スピーカーから音が出ない	スピーカーコードが外れているか、きちんと接続されていない	正しく接続してください
	外部機器接続コードが外れているか、きちんとささっていない	正しく接続してください
	ボリューム調整ツマミが最小になっている	適当な音量にしてください
	外部機器接続コードが断線している	正常なコードを使用してください
	接続した機器の出力端子に接続されていない	接続した機器の出力端子に接続してください
音が小さい	ボリューム調整ツマミの位置が不適切	正しい位置にあわせてください
片方のスピーカーからしか音が出ない	スピーカーコードの接続が不完全	正しく接続してください
	外部機器接続コードの接続が不完全	正しく接続してください
	入力音源がモノラル音源	モノ→ステレオ変換アダプターを別途購入してください

8. 困った時は

症状	原因	処置
ブーンというハム音が入る	外部機器接続コードの差し込みが不完全	しっかり差し込んでください
	外部、携帯電話等からの誘導雑音を拾っている	雑音源を離すか、雑音源より離してください

9. 主な定格

■アンプ部

外形寸法 (W×D×H) 112×122×53mm (突起部除く)
質量 1.3kg (電源アダプター除く)

■スピーカー部 (1本)

外形寸法 (W×D×H) 64×64×264mm (突起部除く)
質量 1.2kg

※定格および外観は、性能改善のため予告なく変更することがあります。
本機は日本国内専用モデルですので、国外で使用することはできません。

10. 修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障とされています。

この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼される場合は、下記の事項を(株)タイムドメインラボまでお知らせください。

1. お名前
2. お電話番号
3. ご住所
4. 製品名：i-SIDE SQ-13
5. できるだけ詳しい故障状況

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後最低8年間保有しています。この期間は経済産業省の指導によるものです。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能な場合もありますので(株)タイムドメインラボへご相談ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご呈示のうえ、(株)タイムドメインラボへご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

(株)タイムドメインラボへご相談ください。

修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。